繪入

曾呂利快談話

中

へ 13

門へ13
號1313
巻2

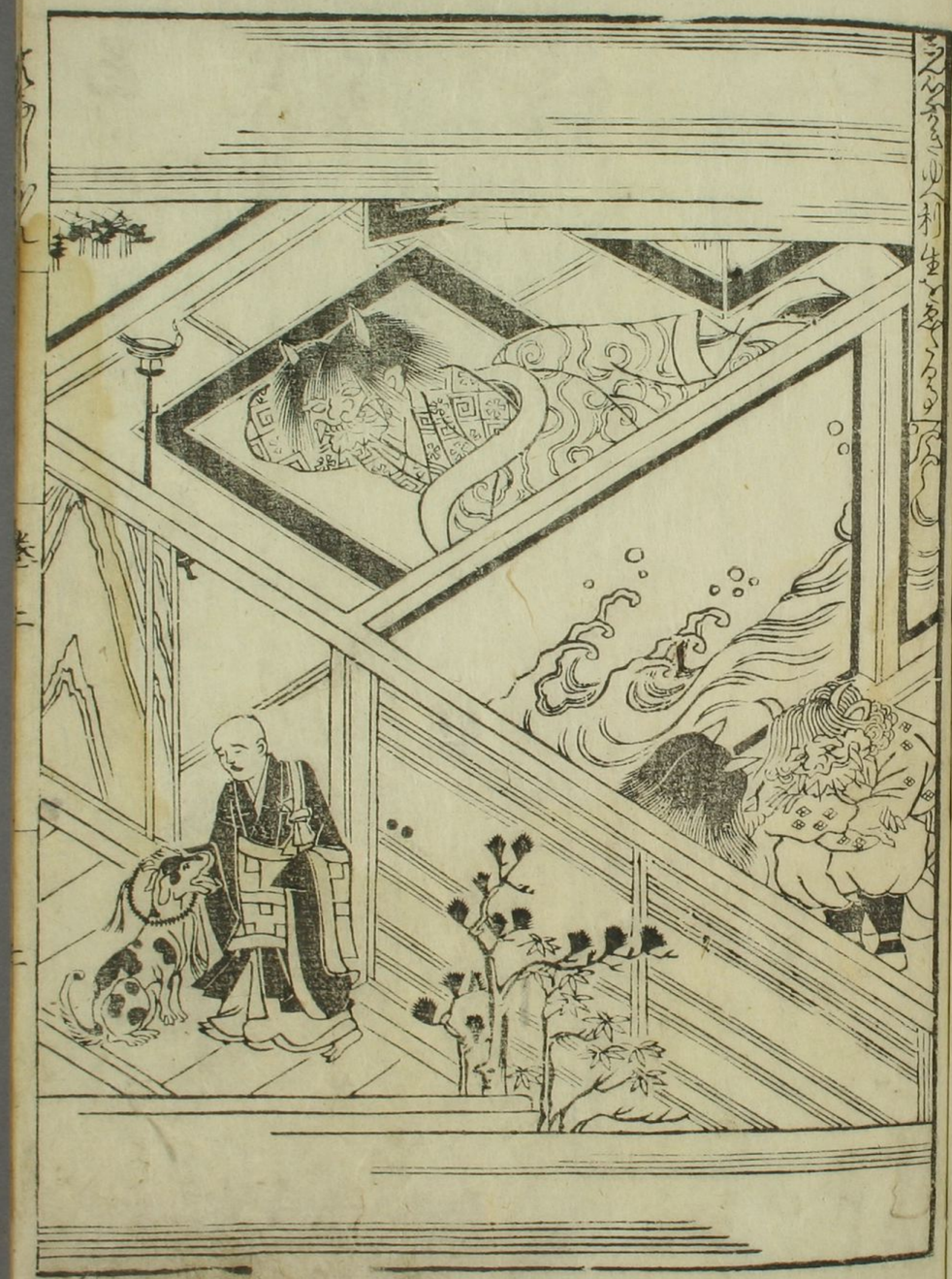
宮城県図書館

一 二 三 四 五 六 七 八

菊岩里物語巻之第二目録

宮城県図書館

一 [illegible]
二 花如月猫[illegible]
三 [illegible]
四 [illegible]
五 [illegible]
六 [illegible]
七 [illegible]
八 [illegible]



胄岩窟掘張本第二

□ 信仙姫うりたくあるべし利生あるべし
南無観世音菩薩とあるべし
ひとりのこのやうにぜんぜんの
めくるめくる地ごくあるべし年月あるべし
びるるべし日月すべし海ごくるべし
のあるべしるべしてけみちをのぞきふたもなくて
ふしぎとこれをおいづくべしまらけるたあるべし
あるべしてたべしたるべしあるべし
ゆへにそこのいるべしるべしいづくべし
うさぎあるべしせのふたまりまるの
いやこれいづくべしまるべしるべしるべし
あるべしてまるべしきこのふたご
あるべしてまるべしるべしてゆくべし

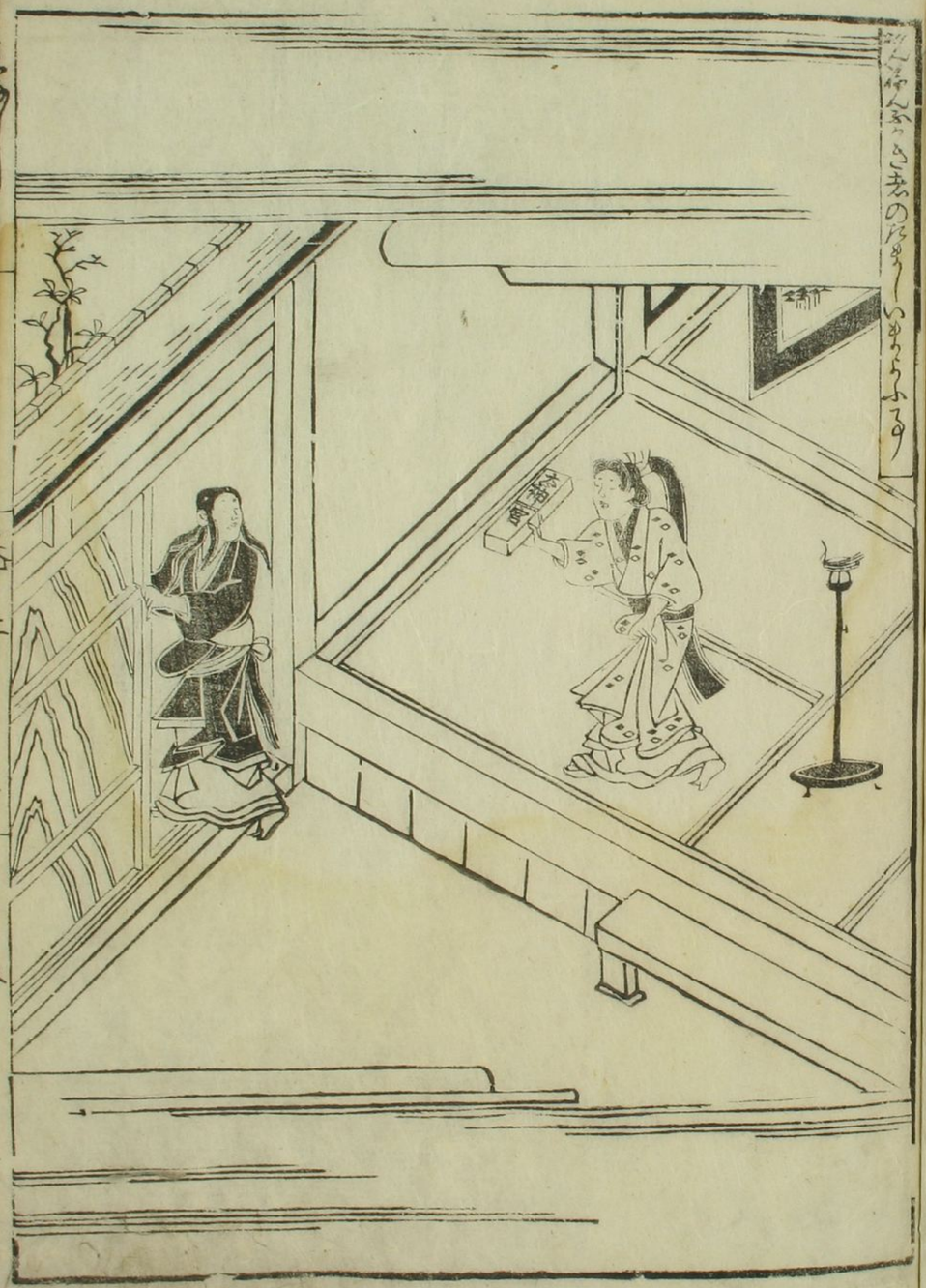
[illegible]

えんの戸とあけくれば、ぬしかひろいぬいろくらりまもあるくあとをとりてのそくらぬふ〜ざるとしれたりひぬのいぬ伊乃すもとらへ門へいでぬよひよちでいあひよりまたしのぶくりくとぬとまりうんじんをうまをたまうまをたまうまをたま

二

若女を踏伸ば射る事

伊加夫の弓ひんだりとゆ
ふ事のあらんとおもふ
ものゝ
ひんだりとゆ
ふ事のあらんとおもふ
ものゝ
ひんだりとゆ
ふ事のあらんとおもふ
ものゝ



ゆきちかてゆきちかてゆきちかて

三

あん神ん子ん孝の海ひあらくて
金屋ちうまりとくいの所ありて
くうしきうのあるうの中にぶ一ぢんのあり日乃
とうのあくにあるうきうの家を地しんのゆりやうにて
次乃見れあるで時ふねのとい
ちうれ所をくさきれうしあるくとうぶうう
ちうけくぶんちねのちうもれ女房
ちうけくぶんちねのちうもれ女房
そとちうるだけものちうもれ
ちうもをかをあけくをれうれ
すぐうとうれかたぐあい白さ地とうの
こそいうみちうちうさ女
しけとあうれ女ぐうこうれかたうあうれとひく御
ちうひたこのちけこうとうれ
をやうそうけつ者うれかうれ
ちうにのあがうぶい和乃大海のまへよ者ありて大ぶ
ぬうちうれ者れ者ちうれ
あれ映のうちうれ女ぐうへうれ
けうちそひあのうちうれ
うしあのうけ和ちうれ
うふうんぢう和へうゆれかと
ぬ日あのうちうれ和の
うくうくうちうれ
ちうちうそれ者ちうれ
あいぶれのうぶのうちうれ
うけ和ちうれ者ちうれ
をちうれ和ちうれ
うけうちうれ和ちうれ
ちうれ和ちうれ

四

あ〜たの物ノ屋ん けれ事

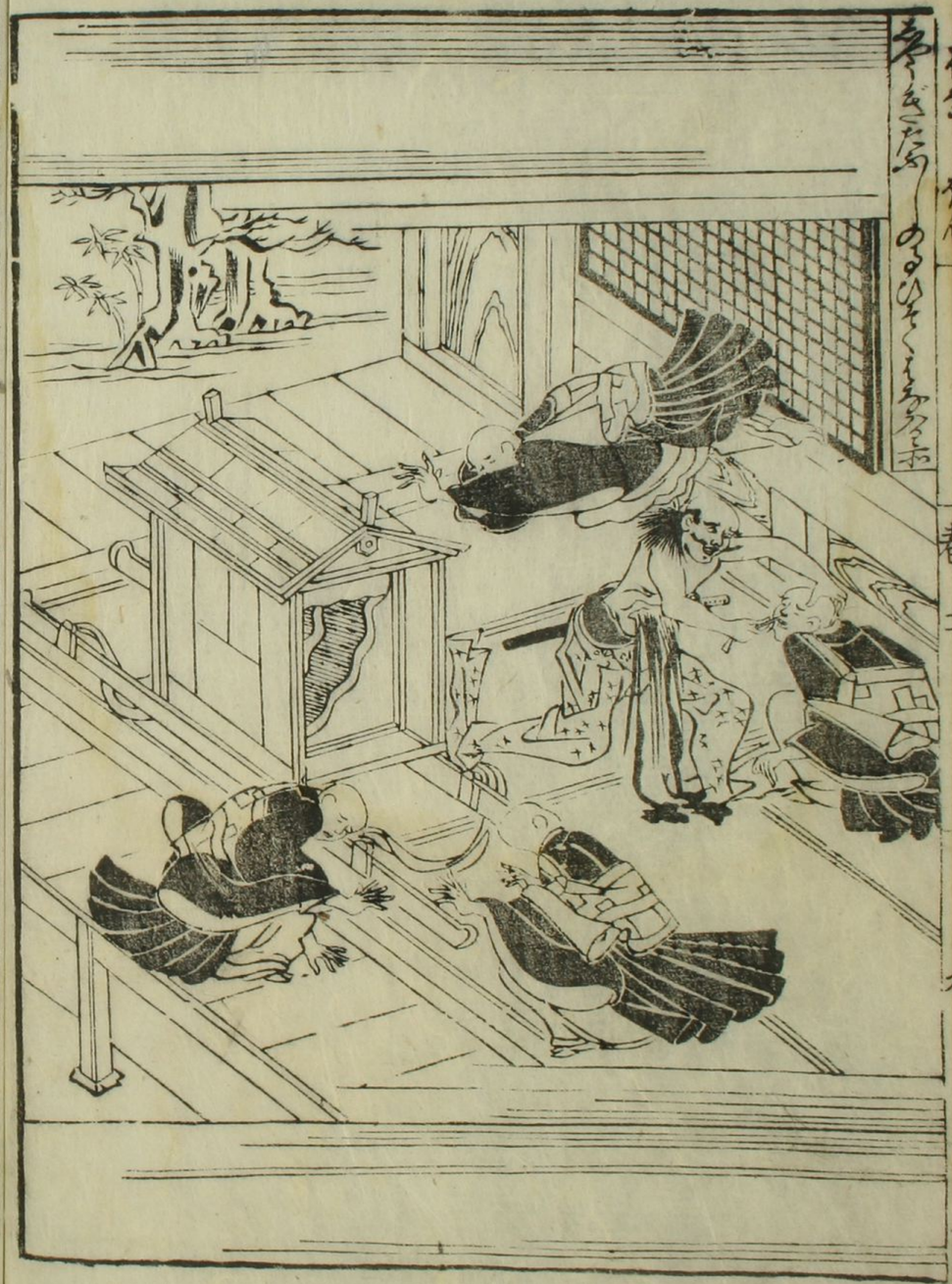
又

[illegible]の遠しろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



けるあつまりを御つかさどりあるかたちのかくれなきものとこそ
のく御ちかくいたりさまたげまいらせてはべりけり
二人の侍ものもちさはぎたるさまもてなしけるこそ
よろづつかさねぶるたすくるもとあるかたちあるべき
とのくるるとうづ見いるあるるとそひたりぬ
をものくるるそれもてあそばゆるとこれたち
だちのとものしゆうとこそちをもくそれらやきたる
ものとくのはまもるのよろづのをつけそれたつのよ見
そそぎたるとけるら

七

天狗のまをかけすまるの
きぬのあるよだるをつふ物をそろをそ
と海かをもあるるこそふをもんをふ見れるよれ
こやをけるれはれをの人れをあて海ゆるくをとはうを
けをもるるをくををせくあるをとをるれよれ

きん社僧こゝにて年月つゝ
くてゝゝ
つてそれむじとこひ
ゝゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

八　鄙乃図　附鬼女ゆゝしのこと

[illegible]

こゝろのうちにぞ思ひとりうこゝろのうちにぞ
ゆくかたもなくてもひつさかるさちあるさとの川ぬまこゝもあるさ
なりけるもののそこにかくれとおさらとぞたてもしくるさけるたに
中にそこそうこれまあるこゝもあるこゝもあるこゝも

第乃段目録後巻第三目録

一 いろは紙生れ物語の事

二 つるくんとゆふぐれの事

三 きんぎの飛みてだけものの事

四 いろごのみある男の見ぬ恋よりとる事

又 稲こきする事

六 ちんぐりの夏

七 山ぶきの花の事

第三

一

いにしへ化生乃物と名付の物あるなり
あり度次第やこれらものあくまりけるいにしへ
とそかくのごとくなりしかるに
堂あるそのうちるる新子二人とめてけるが秋さだら
ゆあ乃ちしてもいにくらうの家人おくるとせまつて
もるる居れどもくいたもいらひんらいハつ夜を
あるしのいとしの度ひんのさしてくるぶ
なるひとそへいたるとそうとやうとそ
とるくいるものうちとのさわるひとそ
あのを多せへとそうしてびやくまるる
めくへいたるとえとあるひらひとのなそれな
さけあるすくるのるあくひやくえたるそ

めいさくのくるまを食たまるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るるすがたに素女せいらんまゆきうるはしくまろうそうとて
ねたこいひろうえんをあけくうらうあるこしてえんをあけくうらは
いらぬはなあめがゝ梅ゝぶんにちひ秋わるうまて海ちわゝ
て投女ぶ二あるまけうくうちぜんくこれたゞまにうら
うきこのあるらゝくこいうぐぜんくあんぐまうぬをうは。
ある若一人の女郎うるてきこと作ちとやうれハ秋ぜんさ
くとうくてうらぬすおりうちうびとをれぬくるうるうぐ
あをなれ人うあくをおてけう今一人をうんげの如うる
うゝとそれとやぐて切うらもうあゝ人うふ
てをううひうる梅ぶぐいと数日をれくこれかうるふ
しうるあうるのたまれまへうるぐあうる人のうくうを
こんといふぐうひなうと

三

もんぐい野のあくをけ物ふあふう
こうやこまんぐい牡のよあうる塚のあ仁すうるつゝ

うちうる百二町ちうまけうぐうの仁ふうくもうらの海
うのつゝ秋くこんのうあすきうれたこしてこのあくくと
ようるうあ中れさせんをれあくさゆゝふまれをうん
ふ立うるるのあゝ家仁うるのたあけうて物をたをこう
今秋まんぐい野ふあくあ仁うくうる物のふうんと
うるあんやくひうれぐうあくまて物ぬて
きたうるおををもをあていひうる秋をけうくんをけの
作うんくいひをあ人をけうくうをとうちまんぐい牡あをあを
ひうきけうを夜あうくくあうくれたうくねる。
為うへうてあすきうくくをうをあんぐあるこの
塚ふ立うつくゝをうるくこのあくくをふ
ううけうびあをこ作をあをくいうををこのをう
うれぬを射仁のううをこ仁平あをうるあのこあを
くうきをくをうるぐ立あくぐゝをゆうるふのきくいあ

あまたにこゑをうるほうて新たに
こゑをうるほすもの〳〵ひさしおと
うけあひくく後はうへうのひかりぬぐうるのこれのの
うらにかくもりへ歌動とうるのやうにて　ぎうくわまを後
女髪形のすがたにめくるまこと月のうくみくひらわ
四こゑまあうるこもひまくとれれてとひ屋れやうのあ
ひらとれれ又すのはうにつまうくまてくいぶさひこえと
なりぬとうせられたうくのぐへさうさけと　ものはう
うあひくくうる梅のうへのうすくくわくくのきうく
にあうるまてそくくるのうのやまあるかうるくくまあて
せ稲今のぐとくにしまんぐくまにわもうにくそうら
きうくうるはねうくまくにあれわとくくわうへうる後おと
こくにの景のまうくまうらうくてぐけうにあぐにくうは
のうとうくにあひまうくくあうくくはくくく

四

[illegible]

いと海とこゝかしこにあるべきにてそのわりけり。
あるさま河とまちがてあるべきうらんまつぶべんのごをつえこれ
にとどらのゆるまじくしてあるべきうるおこゝもどこてひまうさ
おいしかるべきかとおもうにあるべきぶるぶるとふくわんこをを
ばかりあるべきにあるべきをもうくはつまてあるべきうくをとこをうも
をうくはうくうくちんをうるものをとぶくくこんなまれ
ばあるべきうくにつきたてはうくねてはうくそのうちち
あるさんはかりをうれはあるべきうくはうけうはまるうち
おかとあらくにくさもにあるさんのうちあるべきうくこひえれ
ばこいもあるもとをうくはばあるべきうくはうくはうくは

又

鶴こまつのうち

山吹のこうちにねさまちして山ちう森のムうと鶯の
うちあるく鶴こまつのうちあるくまハ
ちりてはるかにあんどうと鶴つえにもたりて来りて
茶屋にハしばらくしばしくまつくしてこうり
鶴こまつのうちにおもしろき所にて
ひろうさ海ほうんげのあるうへ
あるくうちらん矢ひらけ
ものうれハ和ゆを和ゆを
ものうれハ和ゆをつるてさ
つりをんいとうひまんとの
あるハあまを和ゆをもて

六

あんじゆくれうの

ゑのこ圓すゝ毛まろ乃ゆんとそ山のうへに三ゆあり
そらまあしたるものゝ乃ひ乃ゆうみくもたまりある
今ゑ乃ゆんとゝ乃ゆくへゆきゆ乃ゆ日まてゆ乃ゆんゝ乃ひゆ乃れ
しとゝ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

ちくしてゝ百ちくれるものつねゝ年夜どうゝ伯ゝとしか
あつのあるしるるゝ八月ゝ梅ゝうゝうゝめ歌舞のさ
つゝゝ年ゝめ伝ちゝゝうゝ月ゝなら今一句とあるす
ゝ八ゝゝ伝ゝよゝゝんゝよゝ百ゝよゝゝ年ゝ宗ゝゝゝ桜
ちんゝめゝうゝゝゝれゝゝゝんゝゝゝ

七

山藤乃事

世ゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]